

オイスカ in 四国

www.oisca-shikoku.org/

2013.Oct. **11**
vol.11



大 好 き
日 本 の
食 卓

No.3:カレーうどん



アンナさん(23)
フィリピン出身

フィリピン・バゴ研修センターで研修後、スタッフになる。今回は日本語と日本文化を研修している。帰国後は、後輩の指導にあたる予定。

カレーうどんは2つの文化の融合

日本の料理の中で好きな食べ物はカレーうどんです。

私は、チキンカレーはオイスカバゴ研修センターで食べたことがありますが、日本で研修した先輩が、日本で習ったカレーを作ってくちそうしてくれました。さぬきうどんは四国研修センターで作りました。足でうどんの生地を踏んで作ったことは珍しい体験だったので今でも忘れられません。その時にうどんを初めて食べました。

最初、カレーうどんをみた時、とても驚きました。味を想像することができませんでした。私は辛いものがあまり好きではないのですが、カレーうどんはもっと食べたいと思うほど美味しかったです。さぬきうどんは、中国からきた食べ物だと習いました。また、カレーはインド生まれの食べ物です。その

二つを合わせて、日本の和風だしで味付けをしてあるのが、カレーうどんです。違う文化を一緒にして、そして新しいものを作る日本人は、創造力が素晴らしいと思いました。

香川県では野菜をあまり食べなくて、糖尿病の人が多く聞きました。私は看護師資格を持っているので、健康のことがとても気になります。カレーうどんは今のままでも美味しいのですが、野菜をたっぷり入れたら、もっと良い食べ物になると思います。これは私からの提案です。



野菜をたっぷり入れて栄養バランス満点

☺ オイスカの会員・支援者になって国際協力活動に参加しませんか?
OISCA オイスカが進める人材育成、海外開発協力、「子供の森」計画および啓発普及活動は、長期的な取り組みが必要です。継続的なご支援をお願いいたします。

今すぐできる支援の方法は5つ 無理なく続けられる方法をお選びください
■支援内容 支援に関する詳細は <http://www.oisca.org/support/> または下記問い合わせ先にご連絡ください

1 毎月の継続寄附	毎月500円でオイスカ活動をトータルにサポート。8月に年次報告書が届きます。 ●ワンコインサポーター……500円×12カ月 ※月々の自動引き落とし 毎月2,000円からのオイスカ活動トータルサポート。月刊「OISCA」で活動の様子をご報告。 ●マンスリーサポーター……2,000円×12カ月 ※2,000円以上、任意(1,000円単位)の金額で月々の自動引き落とし
2 自由な寄附	各種活動の推進のための寄附です。時期、金額(1,000円以上)、回数は自由で、支援する事業をお選びいただけます。 ●海外開発協力事業 ●「子供の森」計画事業 ●人材育成事業 ●啓発普及事業(国内の森づくりなど啓発普及全般) ●啓発普及事業(海岸林再生プロジェクト) ●トータルサポート ……1,000円~(いつでも何度でも) ※1,000円以上のお申込みで、金額は任意となります。
3 「子供の森」計画支援	年間1口5,000円で「子供の森」計画を支援してくださる方を募集。 支援証、活動を伝えるニュースと現地の子どもたちからのグリーティングカードが届きます。 ●「子供の森」計画支援……5,000円/年
4 賛助会員	オイスカの活動に賛同し、ともに歩んでくださる方を募集。月刊「OISCA」で活動の様子をご報告。 ●維持会員……20,000円/年 ●特別会員……50,000円/年
5 集めて送る	自宅にいなから参加できるボランティアです。ベルマークは1点=1円で「子供の森」計画に、書き損じはがきは各種活動推進のために使われます。 ●ベルマーク ●書き損じはがき

問い合わせ先

◆四国支部	〒760-0017 香川県高松市番町2-7-15 第二讚機ビル2F	TEL:087-821-1503
◇高松推進協議会	〒760-0017 香川県高松市番町2-7-15 第二讚機ビル2F	TEL:087-821-1503
◇坂出推進協議会	〒762-0011 香川県坂出市江尻町1721-10[(株)石井内]	TEL:0877-45-0141
◇三豊推進協議会	〒769-1502 香川県三豊市豊中町笠田笠岡3915-3[(株)イナダ内]	TEL:0875-56-6001
◇香川東推進協議会	〒769-2304 香川県さぬき市昭和5806[高松東ファクトリーパーク さぬき市管理組合内]	TEL:0879-52-5070
◇中讃推進協議会	〒763-0034 香川県丸亀市大手町3-2-1[四国電力(株)丸亀営業所内]	TEL:0877-22-5973
◇綾川推進協議会	〒761-2103 香川県綾歌郡綾川町陶5179-1[オイスカ四国研修センター内]	TEL:087-876-3333
◇徳島県推進協議会	〒770-8555 徳島県徳島市寺島本町東2-29[四国電力(株)徳島支店総務課内]	TEL:090-3181-0158
◇高知県推進協議会	〒780-0870 高知県高知市本町1-6-24[高知商工会議所総務部内]	TEL:088-875-1177
◆四国研修センター	〒761-2103 香川県綾歌郡綾川町陶5179-1	TEL:087-876-3333

[Web] <http://www.oisca-shikoku.org/> [E-mail] : oiscastc@oisca.org

オイスカ四国支部 創立20周年記念式典

創立20周年の節目を迎え、盛大に記念式典が行われました。



「海岸林再生プロジェクト」の担当者だより

◎瀬戸芸のものづくりバンダラデシユ職人・芸術家がオイスカに
◎マレーシアの高校生のリーダーシップ研修を実施

推進協議会の活動報告

- ◎香川東 ◎高松 ◎綾川 ◎三豊
- ◎坂出 ◎徳島県 ◎中讃 ◎高知県

大好き日本の食卓

あなたも参加しませんか?オイスカサポートの輪



OISCA Cultivate the Future
—大志と人に、もっとドラマを—



域内をはじめ、海外での環境問題の解決にも取り組みながら20周年の節目を迎えました。 オイスカ四国支部創立20周年記念式典

「四国はひとつ」 に集う

本年4月25日、
四国支部創立20周年記念行事が、
香川県丸亀市のホテルで開催され、
記念式典や講演、祝宴などに会員、
地元選出の国会議員や域内自治体代表など
200名余りが集い、共に祝いました。

さまざまな活動を通して
人材が育ち、四国支部も
大きく成長しています。

四国支部は「四国はひとつ」を合言葉に
平成5年（1993年）4月、佐藤忠義
初代会長のリーダーシップの下、既存の
3支局（綾南（現綾川）、愛媛県、高松）、
女性部、青年会の独立性を維持しつつ
四国支部に集結、その後各地に支局が
誕生、平成13年（2001年）には中讃
支局が発足し、9支局と2つの部会、
そして会員も約1,200名を擁する
までに成長し、四国研修センターと不離

一体の歩みを進めてまいりました。その
活動は、域内では『山林SUN体験植林』
を中心に25回、海外ではインドネシアでの
植林活動を12回、それぞれ実施し、環境
問題の解決に取り組んでまいりました。
また、毎年恒例の「四国のつどいin香川」
は、支部の歴史と同じく20回を数え、
毎回、中野総裁にご臨席いただきました。
平成23年（2011年）2月1日、
財団法人オイスカは公益財団法人
オイスカに移行し、これを契機に愛媛県
支局は愛媛県支部へと発展的に独立、
他の支局は名称を推進協議会と改め、
今日に至っています。

記念式典では
オイスカ精神を認識しつつ
更なる発展を誓いました。

当日の記念式典では、2012年度の
支部活動に貢献した企業や団体、会員
増強に貢献した組織や団体および個人
など、16組に感謝状が贈られました。
続く記念講演では、愛知大学教授・オイ
スカ理事の樋泉克夫氏から、「2つの
『2つの中国』と日中関係―味噌と筋肉」、
同参事の清藤城宏氏からは、「東日本
大震災復興に向けた海岸林再生への
挑戦について」と題してお話いただき
ました。半世紀ぶりに四国の地を訪れた



という樋泉氏からは「熱意が会場に溢れ、
改めてオイスカ四国の心意気と志を
強く感じた」と講演の感想が寄せられま
した。また、清藤氏の講演を聴いた参加者
からは「スクリーンに映し出される映像を
通して、被災現場で海岸林再生に取り
組む様子がよく分かった。このプロジェ
クトに更に大きな関心を寄せていきたい」

との声が寄せられました。

参加者には20周年記念誌「20年の
あゆみ」が配布され、創立20年、佐藤初代
会長、山野二代会長が創られた伝統と
文化を継承し、これまでの歴史を噛み
締めつつ、物質と精神の調和ある発展を
目指すオイスカ精神のもと、常に地域に
密着した活動を実践し、支部の啓発
普及活動と研修センターの人材育成
活動が車の両輪となり、歩調を合わせて
連携しながら、5年先、10年先の更なる
発展を誓い散会しました。



ビーチパインパラダイスによる歌や研修生によるダンスを披露し、会場は大いににぎわいました



会長 石井淑雄



事務局長 河崎和彦



オイスカの海岸林再生に向けた取り組みを清藤城宏氏がスライドで説明

OISCA SHIKOKU 20th Anniversary

「海岸林再生プロジェクト」の担当者だより



皆 さまのおかげで、「名取市海岸林再生の会」に所属する25名の農家さんたちと共に、関係者一同、元気に頑張っています。

3、4月には、奥羽山脈からの強い西風「蔵王降ろし」が吹きつけ、県内で60人ものけが人を出した4月9日には、名取市で県下最高の34mの風を記録しました。津波で遮るもの一切失った荒野の風です。先日、読売新聞全国版では、仙台市内の稲作農家から海岸林喪失による冷風流入の心配の音が大きく紹介されました。岩沼市の精密機械工場や食品工場から飛砂被害の音が県行政にも届いているそうです。

育苗は、多くの女性メンバーに支えられている部分も多く、彼女たちから「これまで支援者の事を考えるゆとりはなかったけれども、皆さんのおかげでクロマツ育苗に関わりながら、お手当をいただいているのねー。本当に家計は助かっているのよ」「もっとクロマツのことを勉強し



2012年に播種したクロマツが育つ育苗場



たい。種苗組合の研修や県の講習会に私たちも出たい。県内の種苗農家に行ってみたい」というような声を最近聞いています。農業従事者の収入は「未だ震災前の25%」しか回復していませんとも聞きました。

全国有数の規模で育てている我々の16万5千本のクロマツ苗は、強風にも乾燥にも、寒さにも暑さにも耐え、この夏も愛情を込めた散水、除草、消毒の繰り返しにより順調に育っています。県の検査では2年連続トップクラスの成績。「もはや県のモデル」と評価されました。

おかげさまで寄附金は2億円に到達



1:苗植え機で床替え(移植)作業 2:初の播種作業には喜びがあふれていた 3:積雪の育苗場

しました。昨年8月以来、毎日全国の方から一日も間を置くことなくご支援が続いております。当プロジェクトでは、ホームページを支援者の皆さまへの報告ツールと考え、収支報告などはもちろん、日々の様子は「活動ブログ」に毎日更新、また動画や新聞掲載情報、地元農家のインタビューなどの情報を掲載しています。ぜひご覧ください。

また、四国4県には会員の皆さまのご紹介で、30カ所にプロジェクトのチラシが設置されています。新たな設置協力先があれば、どうぞお知らせください。道のりは長いですがしっかりと頑張ります。

「海岸林再生プロジェクト」担当 吉田俊通



被災マツと子ども

◎瀬戸芸のものづくり Bangladesh 職人・芸術家がオイスカに

「せとげい」こと、「瀬戸内国際芸術祭 夏」が高松や瀬戸内海の島々で行われました。7月17日～9月4日、せとげいに参加する Bangladesh の芸術家(ものづくりの職人、演奏家、ダンサー)50名余りが、オイスカ四国研修センターに宿泊しました。7月24日には、四国支部主催で Bangladesh 芸術家一行の歓迎会を香川県、綾川町、国際協力機構(JICA)、綾歌郡ライオンズクラブ、綾川町商工会の後援を受けて開催しました。歓迎会には、Bangladesh 芸術家52名、日本人約150名が参加されました。四国支部から記念品が芸術家に手渡された後、陶大宮八幡宮西中組の獅子保存会による獅子舞を披露。さらに Bangladesh 側からは Ms.Chandana Royさんが楽器奏に合わせてフォークソングを披露し



作品について学習する陶小学校の子ども達

大いに盛り上がりました。芸術家の皆さんはサンポート高松の Bangladesh ファクトリーでものづくりの様子やパフォーマンスを披露する一方、空いた時間を使って日本の人々と様々な交流をしました。7月27日、地元の飼野上地区、飼野下地区の方たちによるどじょう汁(香川の郷土料理で、どじょうや野菜がはいったみそ味の煮込みうどん)の炊き出し。8月1日、高松グリーンロータリークラブの例会。9月3日に行った綾川町立陶小学校の5年生との交流では、職人の皆さんが自分で製作した作品を紹介したり、Bangladesh の国を紹介したりしました。この期間中には、ジュート繊維大臣をはじめ、Bangladesh 国会議員、在日 Bangladesh 大使夫妻など20名近くの Bangladesh の政府関係者が、センターを訪問しました。



高松グリーンロータリークラブの小橋会長、伊藤国際奉仕委員長に、この交流が Bangladesh の職人の販路開拓につなげたいと希望を伝えました



左からエ・ク・ラ(弦楽器)、パン(笛)、ドール(太鼓)を演奏



オイスカ前の道路には、日本の日の丸と色違いの Bangladesh の国旗100本が並びました

◎マレーシアの高校生リーダーシップ研修を実施

今年、5月27日～6月5日(10日間)四国研修センターでマラ・ジュニア・サイエンス・カレッジ(全寮制中等高等学校でマレーシア全土から選抜された優秀な学生のためのエリート校)20名を対象とした「ホームステイ・グローバルリーダーシップ」研修を実施しました。オイスカ研修センターでの生活、講義、産業視察などを通して、日本文化、歴史、産業の発達の実態を学び、リーダーを育成することを目的としています。チームビルディング、日本の高校生との交流、農業体験、視察、宮島見学、マツダミュージアム、戦後からの日本の復興を学ぶため広島原爆記念館の見学や被爆者の方からの講話を聴く等幅広い分野の研修を行いました。プログラムの中で一番の思い出になったのは2泊3日のホームステイです。それぞれのホームステイ先で香川の名勝に連れて行ってもらったり、浴衣の着付けや書道の体験をしたりと、多くの経験をしました。高校生は日本の家族ができ、大変喜んでいましたが、最後の送別会では別れを惜しみ、涙を流していました。日本での研修が活かされ、今後日本とマレーシアの懸け橋となるリーダーになることを期待しています。



最後のさようならパーティ



※マラ公団:Majlis Amanah Rakyat (MARA) 地方地域開発の下部組織。マレー人優遇政策(フミトラ)のため1966年に設立。特に農村地域住民の経済的・社会的発展を促進するための実施機関。青少年育成のための高等技術専門学校や大学を運営(2012年12月現在331校 学生数103,188名)、起業家育成事業にも力を入れている。1967年より技能研修事業をオイスカと開始し、日本へ研修生を派遣。MARAは、マレーシア語でMAJLIS (Council:評議会) AMANAH (Trust:信頼) RAKYAT (People:人民)の頭文字をとったもの。

香川 中 讃 会長◆中野 百合子

オイスカ活動への輪をひろげるために

5月3日と4日、オイスカ中讃推進協議会は丸亀市最大のイベント「丸亀お城まつり」に初参加しました。毎年約20万人が来場するので広報活動の絶好のチャンスと考え、パンフレット配布と物品販売を研修センターの協力を得て行いました。両日とも晴天に恵まれ、丸亀城下町こだわり大物産展会場でパキスタンカレーを販売しました。お客様からは、「美味しい!」「どこのカレーですか?」「玉ねぎのピクルスの作り方は?」等の声を頂きとても喜ばれました。丸亀市からは食器のリユースを通じてエコに協力したと感謝の言葉を頂戴しました。大変忙しい二日間でしたが楽しく有意義なイベントでした。来年も参加しますので、皆様、お城まつりに来て応援をお願いします。



大鍋で作ったカレーは美味しいと大評判



研修生は民族衣装で国際色を

高知 高知県 会長◆青木 章泰

オイスカを広く知ってもらうために

7月11日の総会および四国のつどいin高知には47名が参加し、研修生によるセンターでの研修体験発表を通じて、オイスカ事業に対する理解を深めました。8月23日に夏休み親子ふれあい木工教室を四国森林管理局と共催し、親子47名が参加しました。この行事は、子どもたちの夏休みの研究・学習の支援と身近な自然環境への理解を深めることを目的に毎年開催しており、研修生のマデさんに「森のつみ木広場」を担当していただきました。10月下旬、研修生による母国の料理教室を計画しています。当協議会では初めて実施する行事ですが、このような活動を通じて、オイスカを支援して下さる方が一人でも多くなることを期待しています。



「森のつみ木広場」で間伐の大切さを知りました



総会では西山昌男氏から後任へバトンタッチ

香川 坂 出 会長◆宮崎 博文

会員増強への取り組み

当協議会では新しい取り組みとして、オイスカ活動への理解を広く啓発し、会員獲得に繋げるため勉強会を開催しました。発端は若い会員による発案で、「若い精鋭の企業家や2世経営者を集めるからオイスカについて勉強させて貰えないか」との意見をいただいたことでした。8月22日、28歳～36歳の12名の企業家が集まり、宮崎会長の開会挨拶に続き、石井四国支部会長より、四国支部創立20周年記念誌を用いて、オイスカの創立から活動の全てを楽しく、また興味深く講演していただきました。続いて意見交換会では、会員増強案から企業経営についてまで、話しが大いに盛り上がり、新規入会者を得ることが出来ました。今後の勉強会の定期開催と青年会復活の提案もありました。



息の長い活動に感心する参加者



社会貢献の大切さを再認識しました

徳島 徳島県 会長◆米田 豊彦

阿波踊りで研修生を支援

6月12日、総会および四国のつどいin徳島を法人会員の阿波観光ホテル(法人会員)で開催しました。総会へは来賓として徳島県商工労働部観光国際局国際戦略課グローバル戦略室敷下室長に御出席賜りました。8回目となる四国のつどいin徳島には、研修生や一般参加者等、46名が参加し、研修生による研修状況の報告や懇談などを行ない、恒例の阿波踊りで閉会となりました。8月14日、今年も女性部の協力を得て研修生を阿波踊りに招待しました。今回は、研修センターから8名、推進協議会事務局から2名、女性部から家族も含めて13名が参加し、揃いのオイスカTシャツを着込んで、にわか連で踊りました。研修生は楽しく熱心に踊り、熱狂的な徳島の夜を満喫していました。



総会審議状況



恒例の阿波踊りで懇親会を締めくくりました

香川 綾 川 会長◆大方 義裕

バンラデシュの暑い夏

今年は香川県の島々で瀬戸内国際芸術祭が開催されていますが、四国研修センターには県の依頼で、瀬戸内国際芸術祭に参加するバンラデシュ芸術家約50名が7月16日から9月4日にかけて宿泊しました。オイスカ四国支部では、7月24日に四国研修センターにおいて歓迎会を開催し、当協議会が地元ということで主管を託され、役員一同で取り組みました。バンラデシュはイスラム教やヒンズー教の方と日本と異なる点も多く、喜んで頂くために歓迎会の内容も検討を重ねました。歓迎会には浜田香川県知事も出席され、アトラクションは、日本からは郷土の獅子舞、バンラデシュからは一流アーティストによる歌と楽器演奏が披露され、盛会裏に開催できました。



バンラデシュの国歌を皆で斉唱しました



浜田県知事に花束が贈呈された

香川 三 豊 会長◆稲田 覚

これからも海外植林を

フィリピン・西ネグロス州でのマングローブ植林も3年目が終わりました。毎年5haを、12月初旬の大潮の日を選んで5,000本づつ植えてきましたが、苗木を根付かせることの難しさを感じています。かなりの準備時間を費やし、手間も掛けて植えているのですが、我々人間には及ばない自然の力に屈してしまう悔しさを、経験させてもらった三年でした。たとえマングローブが殆んど流されたとしても、四国のオイスカが来て、植林したことへの感謝の気持ちは、この島の人達の心の中に残っていると思います。島を離れる時に、「来年も来ますよね」「来てくれて有難う」などと、手を振って日本語で見送ってくると、また来なければという気持ちになります。今後も海外植林を続けていきます。



地域の子も汗を流した植林



渡辺団長の活動の様子に感動しました

香川 香川東 会長◆冨田 義雄

ミャンマーの農村地帯を豊かに

当協議会では、ミャンマーの貧しい農村地帯を少しでも豊かにする活動を始めて1年余りになります。内職を希望する人に作業指導し、より多くの人々に参加してもらいながら、地域の実情に合った事業計画を進めています。この活動を始めるきっかけは、オイスカ四国研修センターで研修した研修生が自国で頑張っている様子を見たからです。昨年11月、研修生OGのカイザーさんやティンさんらを中心にミャンマー中央乾燥地域にある小さな村に開店したふるさとレストラン。将来は、初の「道の駅」にする目標で努力しており、その様子を見て何らかの支援をしたいと考えたからです。さらに、5月にはマレーシア高校生2名が冨田会長宅でホームステイをし、楽しい時間を過ごしました。



ホームステイ中、会社見学をし日本の技術を勉強



日本で学んだ研修生OGが大活躍

香川 高 松 会長◆木村 大三郎

組織の活性化に向けて

8月14日、当協議会は四国研修センターの研修生を屋島山上に招待しました。とても暑い日でしたが、研修生は眼下に広がる美しい瀬戸内海や島々をバックに写真を撮ったり、観光客との会話を楽しんだり等、良い休日となったようです。母国を離れ、ふるさとの発展のために遠い日本で研修に励む研修生を、今後も物心両面で支え、日本を第二のふるさとと感じてほしいです。また、会員相互の親睦交流と四国研修センター支援を目的として、11月にチャリティーゴルフ大会を実施する予定です。現在参加者を募集中で、会員でない方も大歓迎です。オイスカについての理解を深めていただく良い機会です。組織の活性化のためにも、是非、ご参加よろしくをお願いします。



かわら投げに挑戦



日本の家屋の移りかわりを学びました